

地域スポーツの日独比較

研究代表者 明 石 真 和

共同研究者 野 田 裕 康

1. 研究の背景

スポーツに対する市民の関心やスポーツビジネスへの需要は、年々増大している。2020年に開催されるオリンピックは競技スポーツ業界ばかりでなく、スポーツ教育制度の分野においても大きな影響をもたらすだろう。さらに、高齢社会においては、生涯スポーツの果たす役割も無視できない。そして、スポーツが及ぼす人間形成としての教育や、健康寿命の伸長に不可欠であるのは、国や自治体などの公的支援である。

大学教員として研究代表者は外国語研究でドイツを、共同研究者は経済研究でドイツに、それぞれ長年携わってきた。そこで今回、それぞれが専門研究の対象としてきたドイツのなかでも、スポーツを共通のテーマとして、日独比較を試みる。本共同研究では特にスポーツの中でも、とりわけ研究代表者が40年以上にわたり観察と研究を続けてきているドイツのフットボール、すなわち、サッカーを比較考察の中心として取り上げ、競技スポーツとして、また、教育システムのツール（指導者ライセンス）として、さらに、経済効果としての財政支援の実態を考察することとした。

2. 研究の目的

競技スポーツとしてドイツのプロサッカーは、長年にわたって世界でトップクラスのレベルにある。そこで本研究ではまず、スポーツ選手の育成と支援システム、さらには、ドイツ市民に広く普及しているスポーツクラブの現状を研究対象として取り上げ、ドイツと日本の根本的な相違を分析していく。そして、ドイツスポーツクラブにみられる地域的役割の重要

性を指摘し、今後日本でも取り入れるべきであるならば、どのような課題が残されているのかも整理しておく。また、地域スポーツの発展とその必要性も、今回の考察に加えるべきであることから、駿河台大学の所在する埼玉県の大学サッカー教育の現状と、サッカー指導者の役割、そして、具体的事例として日独それぞれの地域スポーツ施設等に対する自治体や県の支援実態も把握していく。

3. 研究の概要

研究代表者の明石は、ドイツのプロサッカーチームと関連施設、サッカークラブを訪問し、チームの規模やグラウンド視察、スタッフへのヒアリング、及び、関連する資料収集を行った。

まずドイツ南部地域では、バイエルン州のミュンヘン（FCバイエルン、1860ミュンヘン）とアウグスブルク（FCアウグスブルク）を訪れた。中部地域では、ヘッセン州のフランクフルト（アイントラハト・フランクフルト、FSVフランクフルト、1.FFCフランクフルト [女子チーム]）、ヴィースバーデン（SVヴェーン・ヴィースバーデン）、オッフエンバッハ（キッカーズ・オッフエンバッハ）、ダルムシュタット（SVダルムシュタット98）、ラインラントプファルツ州のマインツ（マインツ05）、バーデン・ヴェルテンベルク州のホッフエンハイム（1899ホッフエンハイム）を視察した。そして、西部地域ではノルトライン・ヴェストファーレン州のデュッセルドルフ（フォルトゥナ・デュッセルドルフ）、ドルトムント（BVB=ボルシア・ドルトムント）、及び、同市内のドイツサッカーミュージアム、メンヘングラットバッハ（ボルシアMG）、ケルン（1.FCケルン）を視察した。

国内ではまず、関東大学サッカー連盟評議員の竹沢茂氏にコーディネートをお願いし、山梨県甲府市にあるヴァンフォーレ甲府を訪問し、ヴァンフォーレ甲府副社長の佐久間悟氏へインタビューを実施した。またヴァンフォーレの練習グラウンドである山梨中銀スタジアム、山梨大学医学部グラウンド、昭和押原公園を視察し、プロサッカーチームの練習施設の実態

を把握することができた。その他には、静岡（清水エスパルス、ジュビロ磐田）、大阪（ガンバ大阪、セレッソ大阪）、神戸（ヴィッセル神戸）、及び、同市内の賀川サッカー図書館を訪問し、藤枝ではフリージャーナリストの仲田氏にヒアリングを行った。

共同研究者の野田は、2016年度国民体育大会（第71回）開催県である岩手県と、ヴァンフォーレ甲府（明石研究代表に同行）を訪問して関連する資料収集を行った。岩手国体では、サッカー競技会場である盛岡市の岩手県営運動公園と、野球競技会場である岩手県営野球場を視察し、それぞれの試合と入場者数の特徴を把握した。また、岩手県国体・障がい者スポーツ大会局、及び、盛岡市国体推進局競技運営課での取材も行なった。

4. 研究の方法

本共同研究の方法は、兎角一方通行になりやすい論文公表のみで完結することを避け、講演会形式による双方向の研究成果を目指した。そのため、研究過程として、主にサッカーを中心としたドイツの日本のスポーツ施設の視察、プロチームマネジメントに対する現状インタビュー、及び、国体開催団体へのヒアリング調査、旧東独出身のフランク・リースナー氏（元NHKドイツ語講座講師）と芦野訓和氏（東洋大学教授）を講演者に招いた、中間報告を兼ねてのセミナーを開催している。研究代表はさらに、埼玉県サッカー協会会長横山謙三氏（メキシコ五輪銅メダリスト、元日本代表監督）を講演者にお招きし、大学サッカー部関係者や周辺の大学サッカー指導者とともに、ワークショップを開催し、現場の声を重視した調査研究も行った。

研究成果の公表に際しても、大学サッカー部監督や部員など、さらには地域市民の方や駿河台大学生の参加によるワークショップ形式のシンポジウム開催による報告会を開催し、本研究成果公表の反応を確認することができた。

5. 研究成果公表

(1) 口頭発表（中間報告会）

明石真和「サッカーを中心としたドイツのクラブ組織について」

特別研究助成報告会『ドイツのスポーツクラブ事情』

2017年2月13日15：00～15：30（於 駿河台大学AVホール）

野田裕康「ドイツ市民スポーツの経済支援の現状について」

特別研究助成報告会『ドイツのスポーツクラブ事情』

2017年2月13日15：30～16：00（於 駿河台大学AVホール）

(2) 口頭発表（成果報告会）

明石真和「ドイツのサッカー事情—ドイツ中部地域のクラブ事情—」

特別研究助成報告会（研究成果報告）『地域スポーツの日独比較—埼玉県とフランクフルト市の比較—』

2018年1月27日13：20～13：40（於 駿河台大学AVホール）

野田裕康「フランクフルトのスポーツ支援—連邦と州の予算を考える—」

特別研究助成報告会（研究成果報告）『地域スポーツの日独比較—埼玉県とフランクフルト市の比較—』

2018年1月27日13：40～14：00（於 駿河台大学AVホール）

(3) 中間報告

明石真和（2017）「ドイツのクラブ組織について」『経済研究所所報』第20号 p. 91-94.

野田裕康（2017）「ドイツ市民スポーツの経済支援の現状について」『経済研究所所報』第20号 p. 95-99.

(4) 講演録

明石真和（2018）「ドイツのサッカー事情—ドイツ中部地域のクラブ事情—」『経済研究所所報』第21号

野田裕康（2018）「フランクフルトのスポーツ支援—連邦と州の予算を考える—」『経済研究所所報』第21号